

奈良教区仏教壮年会連盟

「第39回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要参拝研修」

奈良教区仏教壮年会連盟 理事長 田中彰一

奈良教区仏教壮年会連盟では毎年秋の頃、研修会をしています。その年により、県内外・日帰りや一泊研修と形にとらわれず活動しています。 今年度は、新型コロナウィルス感染拡大の影響により、残念ながら研修会はもとよりすべての行事において予定が立っておりません。 今回は昨年の9月におこなわれた「第39回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要参拝研修」の報告をさせていただきます。

◆研修日程

9月17日 「へいわフォーラム」 築地本願寺

9月18日 「第39回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」

国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑

◆研修内容

17日 平和フォーラム

1部 映画「いしぶみ」

昭和20年8月6日 旧制・広島二中 1年生 321人

広島の本川の土手にて被爆し、幼くしてこの世を去った彼らの最後の言葉を女優の綾瀬はるかさんが、語りべ形式にて紹介された戦争の記録映画

2部 「被爆体験のお話」

本願寺派の布教使でありご本人が被爆者でもある東條明子先生の「被爆体験・戦争の愚かさ・何により救われたか」のご講話



へいわフォーラム 第2部

へいわフォーラムに参加させていただき、第1部・2部を通して戦争の悲惨さや恐ろしさを改めて痛感し、どんな事があると戦争をしてはならないと考えさせられる1日でした。

18日 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要には、大谷光淳御門主がご臨席され、安永雄玄築地本願寺宗務長の導師の元「正信念佛偈」を勤行し、参拝した約1300人が平和への願いを新たにしました。同法要は、満州事変の発端（柳条湖事件）となった9月18日に合せ1981年から毎年同日に開催されているそうです。



「第39回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要」 会場にて

「全戦没者」という言葉には、人類が繰り返してきた戦争によって、尊いのちを失われた全ての戦争犠牲者への思いが込められています。

「平和宣言」において石上智康総長は「仏智に教え導かれ、これを世界中に広く伝え、そして、そのような生き方を積み重ねていくことで、平和への取り組みは、より具体的なものとなるでしょう」とおっしゃっておられました。私はこのお言葉を「平和を願うと共にその願いを何かの形で表現し続けることにより平和への歩みを進める1歩になるのですよ」とおっしゃられているように聞こえました。

今回の研修に参加させて頂き、私は親鸞聖人の「世のなか 安穏なれ」のお言葉を思い出しました。そして念佛者として平和を願うだけではなく、どのように生きていかなければならないかを改めて考える機会を頂いた研修会であったように思います。

合 掌